

イノベーターシップ[®] 養成プログラム（第9期）

2023年



イノベーターシップ® 養成プログラム



01

次世代のグローバルビジネス環境に向かって、「理想とする未来を構想し、実現する力」を身につける。



02

VUCAの時代、いま求められるのは
単なるリーダーシップから
イノベーターシップへ

※「イノベーターシップ」は多摩大学大学院の登録商標です。



熱い思いと実践知で、
世界の現実を転換する
リーダーの力量



今なぜイノベーターシップなのか？



リーダーシップを超える「イノベーターシップ」

短期的な利潤の追求を目的としたマネジメントやリーダーシップでは、長期的な顧客の支持を得ることはできません。

次世代のグローバルビジネス環境の中では、自らの視座を持ち、「**真善美を目指し、新しい世界を構想して現実を変えていく、これまでのリーダーシップの概念を超える力量**」が今求められています。

ご参加の皆様に**理想とする未来を構想し、自ら積極的に関与する実践力**＝「イノベーターシップ」を身につけていただき、これからのグローバルビジネスを牽引していく人材としてご活躍いただけるよう、本プログラムを開発いたしました。



イノベーターシップはマネジメントとリーダーシップの上位概念です

未来創造へ向けたイノベーターシップ



VUCAの時代を切り開く知恵と責任感こそ
自らの人生100年時代、80歳現役力の基盤です



適切に組織を運営し、競争戦略を着実に
実行していくマネジャーの力量



熱い思いと実践知で世界の現実を転換し、
未来の‘社会’を築くイノベーターの力量



変化する時代に俊敏に対応し、成長戦略
を実現していくリーダーの力量



イノベーターシップへの成長



- 結果を出すプロセスとデータをきちんと管理し、所定の目標を達成する
- そのために、人・モノ・カネ・情報・関係性を適切にマネジメントする
- 数値や結果だけを追わない
- 組織内外の調整を図り、全体最適、顧客の利益の視点を忘れない



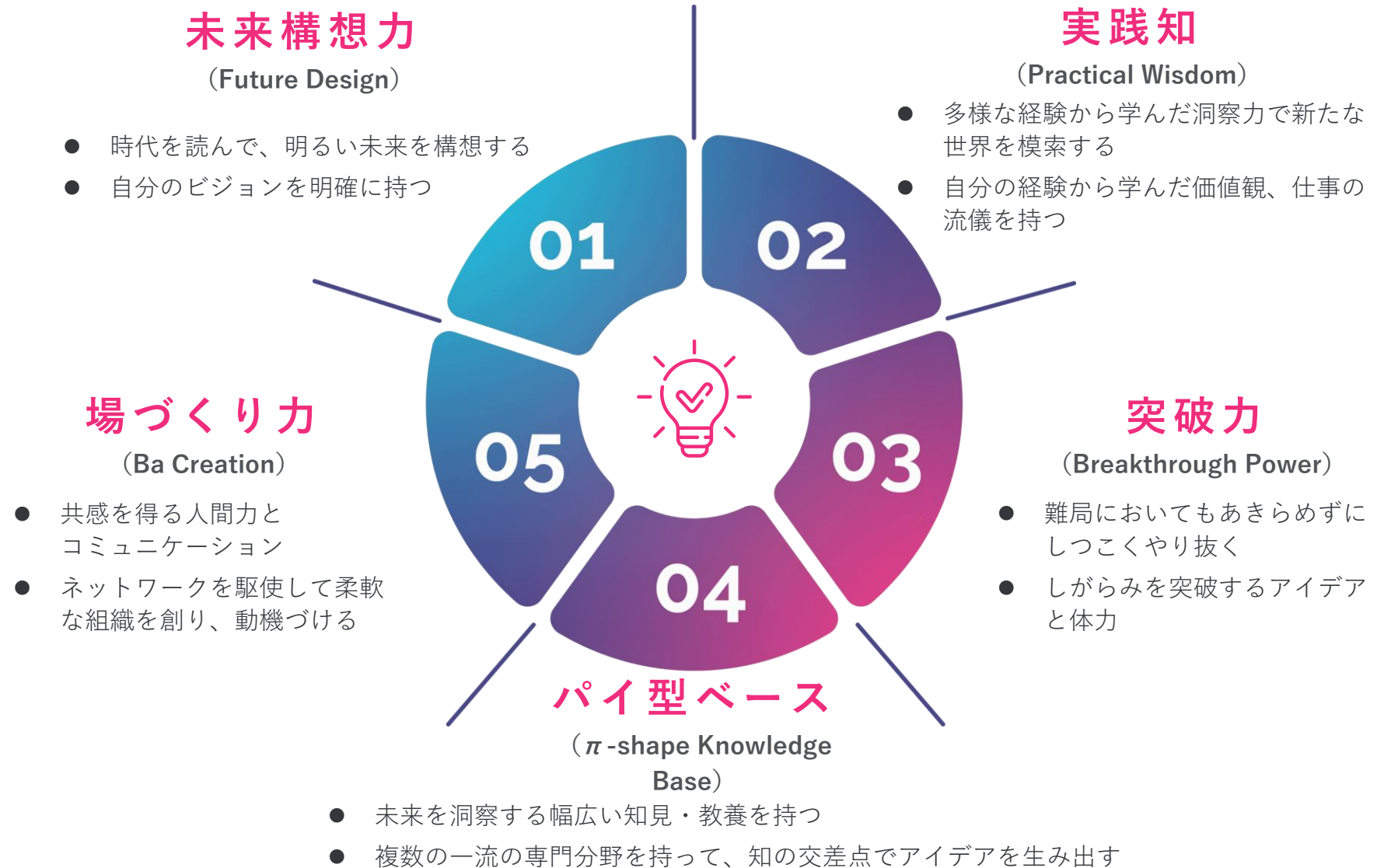
- 進むべき方向のわからない状況の中でも、ぶれないビジョン、戦略を示し、針路を判断する勇気を持つ
- ビジョンに基づく中期的な視点で、人々を動機づけ、困難な課題解決にチームで取り組む司令塔となる



- 世界を変えるようなイノベーション、新しい価値を創造したいという熱い思いをもつ
- 世界のためを思うビジョンを描き、そこへ向かって地道な作業をいとわず、試行錯誤から学びながら、知を創造し、事を成す
- その実現へ向けて、リーダーシップを発揮しながら、適切なチームづくりを行い、人々をインスパイアし、育てていく



イノベーターシップの5つの力





本プログラムで得られる「5つの力」

- 01** 時代を正しく認識し、未来を見据える洞察力
- 02** ぶれない自らの価値観に基づく高い志
- 03** ビジネスモデルを創造・変革するイノベーション構想力
- 04** Unique Value Proposition を生み出す知の編集力
- 05** チームをワクワクさせ闘う集団を作るコミュニケーション力



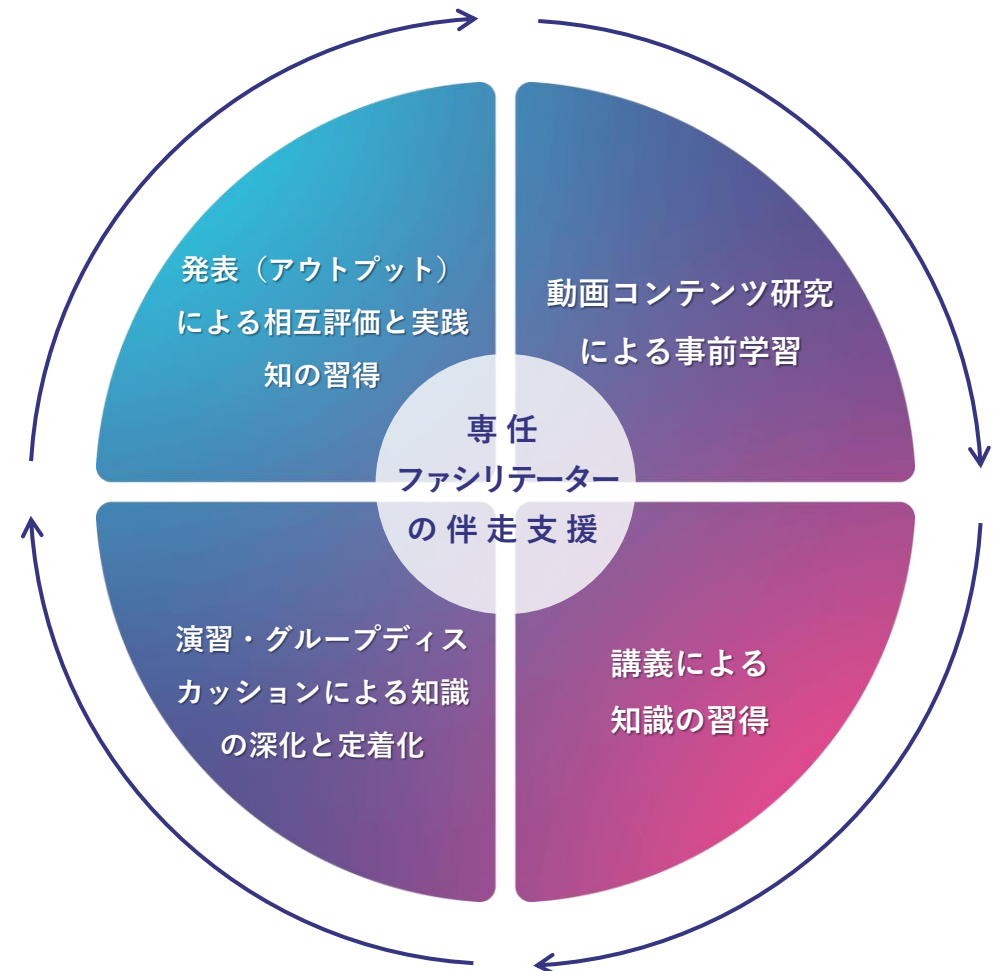
本プログラムの特徴

実践知が身につく構成と、 明確なゴール設定

各セッションは講義、グループディスカッション、グループ発表、演習、動画コンテンツ研究など、実践知が身につく参加型の構成内容になっています。また、得られる力を明確に定義し、進捗を確認しながらプログラムを進めることができます。

プログラム全体を通じ専任のファシリテーターが伴走し、プログラム全体のストーリー性を保ちながら理解促進をサポートします。

プログラム終了後には「時代認識の糸口が見えた」「自分の思い、ビジョンを明確にできた」などの成果をお約束します。





多摩大学大学院の気鋭の教授陣が講師を担当します



多摩大学大学院は日本で最も

イノベーション系講座が充実したMBAです

イノベーション各分野の第一人者から最先端の
セオリー、スキル、実践的ノウハウを学び

「イノベーターシップ」が身につきます。



多摩大学大学院は、従来のMBAとは違い、「イノベーターシップ」をキーコンセプトに社会人の知の再武装の場を提供しています。多様なバックグラウンドを持つ講師陣がそろい、受講生も社会人経験豊富な多様なミドルたち。教員との議論や異業種交流を通じて、豊富な実践知を学び合えます。





2023年度で9期目の開催を迎えます [過去参加企業（抜粋）]

会社名 50音順

株式会社アイシン

旭化成株式会社

株式会社オリエンタルランド

花王株式会社

協立情報通信株式会社

株式会社構造計画研究所

サトーホールディングス株式会社

参天製薬株式会社

株式会社ジェイテクト

ダイキン工業株式会社

大日本印刷株式会社

田辺三菱製薬株式会社

テルモ株式会社

トヨタ自動車株式会社

株式会社トランストラクチャ

西尾張シーエーティーヴィ株式会社

日産自動車株式会社

株式会社日産フィナンシャルサービス

日清製粉株式会社

株式会社野村総合研究所

パイオニア株式会社

富士通株式会社

富士通ITマネジメントパートナー株式会社

株式会社マネジメントサービスセンター

マレリ株式会社（旧カルソニックカンセイ株式会社）

三井住友信託銀行株式会社

ライオン株式会社





本講座の流れ

セッション日程 (2023年度ver)	テーマ	講師 (2023年度担当講師)	イノベーターシップ のテーマ
第一回 10月11日-12日 (2日)	<ul style="list-style-type: none">● キックオフ● イノベーターシップ総論● ロールモデルのゲスト講演	藤井敏彦 徳岡晃一郎 荒金久美	<ul style="list-style-type: none">● 総論
第二回 11月 11日or12日 (1日)	<ul style="list-style-type: none">● ソーシャルイノベーションの現場訪問	川崎フロンターレ	<ul style="list-style-type: none">● 実践知● 突破力
第二回 12月13日-14日 (2日)	<ul style="list-style-type: none">● ビジネス創造とマーケティング戦略● DXとデータサイエンスマインド● 野沢龍雲寺でのオンライン座禅体験● ウェルビーイング	本荘修二 前田英志 野沢龍雲寺 細川住職 大西聖子	<ul style="list-style-type: none">● 未来構想力● 突破力
第四回 1月18日-19日 (2日)	<ul style="list-style-type: none">● テクノロジーイノベーション経営の現在と未来● 公共哲学● オーセンティックリーダーシップ	栗山実 小林 正弥 徳岡晃一郎	<ul style="list-style-type: none">● 未来構想力● パイ型ベース● 場づくり力
第五回 2月21日-22日 (2日)	<ul style="list-style-type: none">● リーダーシップコミュニケーション● イノベーターシップのまとめ	佐藤勝彦 徳岡晃一郎	<ul style="list-style-type: none">● パイ型ベース● 場づくり力

毎回のアサインメント

動画学習テーマでライティングを行う



講師紹介（予定）



徳岡 晃一郎（兼プログラムディレクター）

多摩大学大学院 名誉教授、（株）ライフシフトCEO

日産自動車人事部、欧州日産を経て、1999年よりフライシュマン・ヒラード・ジャパンのSVP/パートナー。また、2006年から多摩大学大学院教授を兼任野中郁次郎名誉教授との共同開発によるMBB(思いのマネジメント)の第一人者。著書に『40代からのライフシフト実践ハンドブック』、『MBB:思いのマネジメント』（野中郁次郎名誉教授、一條和生教授との共著）、『ビジネスモデルイノベーション』（野中名誉教授との共著）、『人工知能×ビッグデータが「人事」を変える』（福原正大氏との共著）、『イノベーターシップ』など多数。東京大学教養学部卒業。



藤井 敏彦（兼プログラムディレクター） ※ほとんどのセッションでファシリテーションを担当します。

（株）ライフシフト ストラテジック・アドバイザー

1964年生まれ。87年、東京大学経済学部卒業。同年、通商産業省（現・経済産業省）入省。94年、ワシントン大学でMBA取得。通商、安全保障、エネルギーなど国際分野を中心に歩き、通商政策課長、資源エネルギー庁資源・燃料部長、関東経済産業局長、防衛省防衛装備庁審議官、国家安全保障局（NSS）内閣審議官などを歴任した。2000～04年には在欧日系ビジネス協議会の事務局長を務め、日本人初の対EUロビイストとして活動するなど、豊富な国際交渉経験を有する。NSSでは経済班の初代トップとして、経済安全保障推進法の策定などに携わった。



佐藤 勝彦

多摩大学大学院 客員教授、（株）ライフシフト エグゼクティブコンサルタント

日産自動車株式会社にて主に組織・人事を担当。米国における現地生産プロジェクト及び米国での現地設計開発会社設立に参画。人事次長を経て、1995年フォードジャパン入社。人事部長、社長、会長を歴任。国内、海外での講演多数。



講師紹介（予定）



本莊 修二

多摩大学大学院 客員教授、日本マーケティング協会会員誌「マーケティング・ホライズン」編集委員

本莊事務所代表として、新事業を中心に、イノベーションやマーケティング、IT関連などの経営コンサルティングを手掛ける。日米の大企業、ベンチャー企業、投資会社などのアドバイザーや社外役員を務める。IT特化の投資育成会社General Atlantic LLC日本代表などを経て、現在に至る。東京大学工学部卒業、ペンシルベニア大学ウォートン経営学修士、早稲田大学博士（学術）。ウォートンクラブオブジャパン理事。



前田 英志

多摩大学大学院 客員教授、フィンファイ株式会社代表取締役社長

東京大学大学院修了(機械工学)、一橋大学国際企業戦略科修了(MBA)。専門は技術戦略とビジネスアナリティクス。過去、日本IBM戦略コンサルティンググループにて、データ戦略をリード。データサイエンティスト育成道場プログラムを開発し、小売業、製造業に展開。この取組みは、経済産業省のものづくり白書(2017)に掲載されている。IBMの経営企画にも所属し、IBMの変革プロジェクトに参画。著書に「IBMを強くしたアナリティクス (共著、日経BP社)」がある。現在は「地球上のすべての個人が、お金から自由になり、自分が本当にやりたいことをやれるようになる」ことをミッションとした会社を立ち上げ、世の中のすべての人の経済的自立の実現に魂を尽くしている。



大西 聖子

(株) ライフシフト ライフシフトコンサルタント

日清製粉株式会社の業務用営業企画部門にて、商品プロモーションや会員制コミュニティの運営企画全般に携わる一方で、顧客向け・販売代理店向けのセミナー・研修企画、マーケティング講師として長年携わる。2021年3月に同社を退職し、ウェルビーイング・キャリアの活動を開始。国家資格キャリアコンサルタント、ウェルビーイング心理教育ナビゲーター、EAPメンタルヘルスカウンセラー、一般社団法人マインドフルネス瞑想協会認定講師。



細川 晋輔

臨済宗妙心寺派 龍雲寺住職

1979年、東京世田谷生まれ。松原泰道の孫。花園大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了。京都・妙心寺専門道場にて9年間禅修行。2013年より東京都世田谷区にある臨済宗妙心寺派 龍雲寺住職。臨済宗妙心寺派東京禅センター副センター長。NHK大河ドラマ『おんな城主 直虎』の禅宗指導を務めた。



講師紹介（予定）



栗山 実

多摩大学大学院 客員教授、データサイエンティスト・経営戦略アドバイザー・スタートアップ経営

ビッグデータ統計解析による経営戦略立案、データドリブン事業構想の設計・事業化、データ技術実装のためのアルゴリズム開発など、「データサイエンス×事業戦略」の領域を専門的に手掛ける。また、IT・HR・ヘルスケア・物流など様々な事業分野でデータ技術を活用する複数のスタートアップに共同創業者・取締役・データサイエンス統括などの立場で参画。東京大学理学部卒・同大学院修了（理学修士；素粒子論）。マッキンゼー・アンド・カンパニー等を経て独立、現在に至る。



小林 正弥

千葉大学大学院 人文社会科学部 教授

専攻は政治哲学、公共哲学、比較政治。公共哲学・コミュニタリアニズムの研究を通じ、ハーバード大学のマイケル・サンデルと交流をもち、2010年4月～7月に放映されたNHK教育テレビ「ハーバード白熱教室」で解説者を務める。他、共和主義、地球的スピリチュアリティ・環境・福祉、恩顧主義と習合主義、政治的腐敗などを研究テーマとしている。近年では、公共性、対話をキーワードとした実践的な哲学の展開やコミュニタリアニズム研究、ポジティブ心理学の研究に力を注いでいる。



荒金 久美 ※ゲストスピーカー

カゴメ株式会社 取締役

東京大学大学院修了後、株式会社コーセーに入社。研究所にて化粧品の分析・基礎研究・素材開発に携わる。その後、執行役員商品開発部長、執行役員研究所長、取締役品質保証部・購買部・商品デザイン部担当、監査役を歴任。研究所時代には数多くのヒット商品を世の中に送り出し、2005年にはライスパワーエキスNo.11を配合した「モイスチュアスキンリペア」で日経ウーマン主催のウーマン・オブ・ザ・イヤー 2005（ヒットメーカー部門2位、総合8位）を受賞。2020年より現職



Session1

イノベーターシップで時代を切り拓く

● = 講義中心 ■ = 演習、発表
◆ = グループディスカッション、発表
(以下、Session6まで同様。)

<p>担当講師</p>	<p>徳岡 晃一郎 / 藤井敏彦 / 荒金 久美 (ゲストスピーカー)</p>	
<p>講座概要</p>	<p>常に変動し、不確実な未来、複雑で捉えきれない現実の中で我々は利益を確保するだけでなく新たな価値創造が求められている。これまでのリーダーシップの概念では時代は切り拓けないのではないか。確かな時代認識とともに現実に流されず、未来を構想できるスケールの大きな“イノベーターシップ”が今求められている。</p> <p>アメリカ、ヨーロッパそしてアジアでダイナミックに“グローバル化”が変貌していく中で自社の抱える課題を今の共創という視点で整理しながら、自らイノベーターとしてどう関わりあっていくのか深堀したい。</p>	
<p>推薦図書</p>	<p>『未来を構想し、現実を変えていくイノベーターシップ』 徳岡晃一郎 (著) / 東洋経済新報社</p>	
<p>1日目</p>	<p>A M</p> <p>開講式・オリエンテーション</p> <p>●イノベーターシップとは何か (徳岡)</p> <p>◆自己紹介</p>	<p>P M</p> <p>●ゲスト講演：イノベーションを実現する力とは ～化粧品開発におけるイノベーションプロセスの 視点から～ (荒金氏)</p> <p>◆イノベーターシップ 自職場課題から考える</p>



Session1 イノベーションの為にルール形成戦略と世界観

<p>担当講師</p>	<p>藤井敏彦</p>	
<p>講座概要</p>	<p>1.危機感：日本の産業のこれまでの推移と現状を俯瞰するとともに進行する米中のデカップリングを日本企業にとっての視点（経済安全保障）から、さらにサステナビリティの本当の怖さをそれぞれ描き出します。結果今後急速に競争力を失い日本が貧困にあえぐ国になる究極のホラーストーリーを議論の出発点とします。</p> <p>2. ルール形成戦略：そのような事態に至らないためにはスケール感のある「何か新しい価値」を創り出していかなければなりません。そのためにはイノベーションに関する考え方の再構築が必要です。キーワードは「ルール形成」。ルール形成戦略の実例を通して新しいイノベーション戦略を考えます。</p> <p>3. 世界観：なぜ「カイゼン」や現場力に秀でる日本企業がアマゾンのような壮大な発想には届かないのか、なぜルール形成という着想がなかったのか。「意識の違い」に切り込んでいきます。そこには我々が気づいていない彼我の「世界観」の差異があります。どう違うのか、どこから来るのか、について論じ、企業の将来を担う人材の在り方で締めくくります。</p> <p>4. 文脈の共有：全体として今後の講座で学ぶにあたって必要な下敷き共有するセッションとしたいと考えています。</p>	
<p>推薦図書</p>	<p>第一推薦図書「競争戦略としてのグローバルルール」（東洋経済新報社）藤井敏彦著 第二推薦図書「サステナビリティ・ミックス」（日科技連出版社）藤井敏彦著</p>	
<p>1日目</p>	<p>AM</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆チームに分かれ各人の会社の「生前死因分析」を実施。それを受けて日本産業消滅のホラーストーリーを講師が論じる。 ◆チームに分かれ会社のイノベーション能力の評価を議論し、その考察を踏まえ新しいイノベーションの考え方を論じる。 	<p>PM</p> <ul style="list-style-type: none"> ●川端康成「雪国」の冒頭の一節を使い日本人と欧米人の世界を見る「視点」の違いを考える 全員が無意識にもっている社会に共有されている視点の「型」。他方、社会（もしくはそれを基礎づけている宗教）がちがえば別の「型」もあるのだという気づきを通じ、自らの思考の「型」を意識化しかつ相対化すること、リーダー、イノベーターに必須な作業が午後を中心テーマ。



Session2

社会課題の解決に取り組んでいる現地でイノベーターシップを考える

担当	川崎フロンターレ	
講座概要	2001年にJ2降格、来場者数激減の状態から、2020年J1優勝に至るまでの背景には、地域から愛される企業へ変わるための、地道な地域貢献活動と強いチームを支える両輪での活動があった。経営者視点で、商圏内で愛される企業・ロイヤルカスタマーを獲得していった方法について、講演します。	
1日目	終日	<ul style="list-style-type: none">● 講演「街とともにクラブは生きる-スポーツの力で、人を、この街を、もっと笑顔に-」● スタジアムツアー● 試合観戦 <p>※11月11日or12日 川崎フロンターレ vs 京都サンガF.C. を予定しています。 開催日、開催時間が未定のため詳細については後日ご連絡いたします。</p>



Session3 未来を切り開く視点：「ビジネス創造とマーケティング戦略」

担当講師	本 荘 修 二			
講座概要	<p>新事業や事業転換なくして、既存事業の延長上では、将来は危うい。 本セッションでは、事業創造の理論と演習により、未来に挑む視点と実践的スキルの醸成を図る。さらに、マーケティングに注目し、より実現性が高く顧客・市場にマッチした事業創造、そして成長ポテンシャルのある事業化のための、新事業マーケティングを学ぶ。 自分事として体験し、気づきやインサイトを得るため、新事業案の発表やグループワークを含む演習を行う。</p>			
推薦図書	『新規事業の実践論』麻生要一著、ニュースピックス 『インキュベーションの虚と実』本荘修二著、ダイヤモンドオンライン連載（推薦記事を選定）			
1日目	A M	<ul style="list-style-type: none">●イノベーションと事業創造●新事業マーケティングI	P M	<ul style="list-style-type: none">●事業創造演習●ビジネス機会の特定（Opportunity Recognition）●新事業マーケティングII



Session3 DXとデータサイエンスマインド/座禅体験・マインドフルネス&ウェルビーイング

<p>担当講師</p>	<p>前田英志 / 野沢龍雲寺 細川住職 / 大西 聖子</p>			
<p>講座概要</p>	<p>1, データドリブン経営とは、「データ」と「アルゴリズム」に基づいた客観性の高い意思決定を経営の世界で行うことである。その対立概念は、KKD (= 勘と経験と度胸) 経営である。KKD経営における「経験」と「勘」が、データドリブン経営における「データ」と「アルゴリズム」にそれぞれ該当する。本講義は、企業がデータドリブン経営の成熟度を向上するために必要な4つの要素*について、具体的な先行企業の実例を通じて、学ぶことを目的としている。*①ビジネス価値を実現するための変革プロジェクト (ユースケース) ②デジタルテクノロジーを活用するためのデータプラットフォーム ③データドリブン経営を推進するための組織 ④データサイエンスに関わる高度データ人材の育成</p> <p>2. オンライン座禅体験を実施</p> <p>3. マインドフルネス実践の効能の1つとして、自己認識力 (セルフアウェアネス) の向上が挙げられる。内発的動機、ビジョン、使命に基づいて行動する姿は、求心力と周囲との関係性が向上し、イノベーターシップにも寄与することを学ぶ。</p>			
<p>推薦図書</p>	<p>『ウェルビーイング』前野隆司・前野マドカ著、日経文庫 『マインドフルネス ストレス低減法』ジョン・カバットジン著、北大路書房</p>			
<p>1日目</p>	<p>A M</p>	<p>●◆DXとデータサイエンスマインド</p>	<p>P M</p>	<p>オンライン座禅体験 ●◆マインドフルネス&ウェルビーイング</p>



Session4

テクノロジーイノベーション経営の現在と未来

担当講師	栗山 実	
講座概要	「30年後」を議論の題材として扱うことで、事業環境がイノベーションによって大きく変わる未来を見通し、新しい時代への道筋を作るリーダーたるための俯瞰的視座を得ることを目指す。特に20世紀以来の情報技術革命やAI等の最新技術を踏まえ、次世代の産業を生み出す競争に勝ち残るための長期戦略の手がかりを採求する。 未来を創造するイノベーターたるために評論家ではなく自分事として取り組むことの重要性と難しさ、志とテクノロジーの両立によるビジネスの創造について演習を交えて理解を深める。これらを通して、テクノロジーイノベーションの時代のリーダー像を考察する。	
推薦図書	『HARD THINGS』ベン・ホロウィッツ著、日経BP社	
1日目	A M ● イノベーションによる産業転換の速度、過去と未来 ● ◆ 「30年後」の未来を見通す企業戦略を描く	P M ● 技術革新と産業構造の転換 ● ◆ 破壊的イノベーションと自分事化 ● ◆ 志とテクノロジーによるビジネス創造



Session4

公共哲学とオーセンティックリーダーシップ

担当講師	小林正弥 / 徳岡 晃一郎	
講座概要	<ol style="list-style-type: none">1. どのような未来社会を創造していくのか、どのような哲学を持って、正義を定義していくのか。イノベーターシップの根幹に据えなくてはならないリーダーとしての公共善とはなに可。またそれを具体化し、共有していく対話法について学ぶ。2. 論理分析過多、数値管理過多、コンプライアンス過多に陥って、人間性を忘れた経営が多くなっている昨今、今一度、人間本来の内なるモチベーションを呼び起こすマネジメントが求められている。特にイノベーションを起こす時に必要になる、未来社会を創造するリーダーの熱い「思い (Belief)」をいかに育て、社員の心に火をつけるか、そのマネジメントを学ぶ。3. Attunedモチベーションファクター診断の実施 自分のキャリアや仕事観を再確認するために、自分の中から出てくる真の動機とは何かを、診断ツールを通じて確認し、未来のビジョンづくりに役立てる。	
推薦図書	『MBB:「思い」のマネジメント 実践ハンドブック:社員が「思い」を持てれば組織は強くなる』 徳岡晃一郎 (著) / 東洋経済新報社	
1日目	A M <ul style="list-style-type: none">● 哲学の系譜と美徳の哲学● 公共善、美徳とポジティブ心理学◆ 社会課題への対話型アプローチ	P M <ul style="list-style-type: none">● 自分の思いを振り返る■ セルフコーチング / ストーリーテリング◆ 思いのピラミッド



※下記予定は変更となる場合があります。

Session5

- (1) 「リーダーシップ・コミュニケーション」
ーイノベーターシップを起動し、知を共創するカー
- (2) 「イノベーターシップ実践に向けてアクションプランを考える」

担当講師	佐藤 勝彦 / 徳岡 晃一郎			
講座概要	<p>よりダイナミックなイノベーションを起こすには、ますます進むグローバル化の波を利用して、多様の価値観を持つステークホルダーをひきつけ、知を共創するチームにまとめ上げていくコミュニケーション力が不可欠であり、イノベーターシップの基盤である。</p> <p>しかし、残念ながらその育成の重要性が認識されていないし、その育成方法も十分とは言い難い。</p> <p>世界のリーディングコミュニケーションコンサルティング会社であるフライシュマンヒラードの豊富な経験と知識、技法でコミュニケーションの本質とは何かを問いながらイノベーターとしての実践的コミュニケーション力を演習を通じて身に着ける。</p> <p>2日目の最終日には、これまでの研修での学びを振り返り、「自社でイノベーターシップ風土をどう形成するか」「自身、自部門で具体的にどうアクションをとっていくのか」を各自が発表する。また、発表内容に対して討議を行い、それぞれのアクションプランのブラッシュアップをする。</p>			
1日目	A M	<ul style="list-style-type: none"> ● リーダーズコミュニケーションとは何か？ 編集力を磨く ■ エレベータートーク 	P M	<ul style="list-style-type: none"> ● スピーチ分析 ◆ 分析発表 ■ 経営方針原稿作成 ■ 同発表 ◆ 評価
2日目		<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題発表：イノベーターシップ風土を創る、アクション表明 ◆ 上記発表に対してグループ討議、全体討議 		<ul style="list-style-type: none"> ● 全セッションの振り返り ◆ これからどういうActionをとっていくのか ■ パネルディスカッション：徳岡×佐藤 <最終日終了後懇親会を予定しています>



Attunedの11のモチベーター（Session4 の講義で実施）

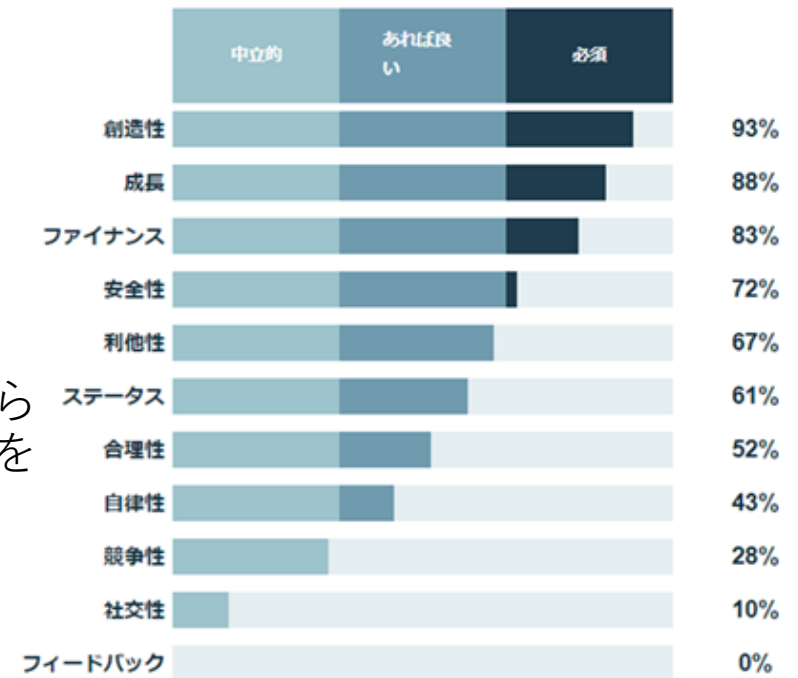


11



徳岡 晃一郎
モチベーターレポート

詳細はモチベーターをクリック



心理学の知見に基づき、内発的動機（自身の内部から生まれるやる気）に影響する要素「モチベーター」を11個に整理。
各モチベーターへの要求度を数値化し、普段気づきにくい自分の内なる価値観を可視化します。



プログラム紹介動画・受講者インタビュー動画のご案内



イノベーターシップ養成プログラムの紹介動画、
受講者へのインタビュー動画を
弊社ホームページにて公開しておりますので
QRコードより是非ご覧ください。





講義を通してどのような変化が起こったか



2022年度参加者からの声

- 講義で学んだこと・感じたことが自分の引き出しに入り、すでに入っているモノと組み合わせられる下地ができて、人間としての厚みが少し厚くなった。
- 講義の内容もそうだが、他のメンバーとの交流でも自身のモチベーションが上がった。
- **同年代の方ばかりで刺激を受け、自分もリーダーシップを発揮していこうという意欲**がわいた。
- 自身の不勉強に気づけた。なぜ自分が働くのか、その意味を再確認しようと思えた。
- 視座が上がった。**足元の利益・コストだけでなく、正義やビジョンをもとにした意思決定の理想像**を考えられるようになった。
- 自分の知識不足の認識、今後の考え方の参考となりました。
- インプットする知識量が少ないと認識させられた。**自社内では気付くことができない、他社の同世代のイノベーターを目指す層との差が明確に分かった。**
- 自分自身の視座が上がり、能力開発の重要性、**周囲への巻き込みの重要性を強く感じ、行動に変化**がでてきた。
- 自分の思いを言葉にすることが大事だと思いました。こんなこと言ってもしょうがないだろうと閉じている部分がありましたが、自分の中で閉じてたら、その時点で何も生まれなし、イノベーション、ビジネスの広がりも出ないと思うことができたことは、大きな成長です。
- ビジネスとしてもそうですが、**日々の業務の中でのイノベーションの積み上げが大きな変化を産むと理解**しました。なにも0から壮大なイノベーションを突然起こす必要はなく、組織・部門・チーム単位で貢献できることから考えること、そして、本当に自身が起こしたい変化とはどういうものなのかを言語化していくことが重要だと感じました。
- 同世代の方と話すことで、刺激を受けました。自分の自身足りない点がクリアになったのでそれを向上させていきたい。
- **自らがイノベーターシップを発揮して、失敗を恐れず様々な課題に立ち向かっていく意思**が芽生えました。



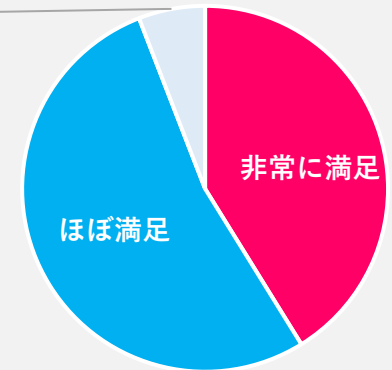
全体を通して本プログラムの満足度



2022年度参加者からの声

- **様々な業種や会社の同年代と議論を交わせたことが何よりの財産**となった。
また普段の悩みに留まらず今後について議論できたことも良かった。
- 自分の会社や業界に閉じ同世代の仲間の経験や考えを聞くことで、
視界が広がったと感じるからこもってしまう環境から抜け出し、知識を得るだけでなく、
イノベーターシップに関する数々のピースと行動する事の後押しをもらった。
- チームアクションラーニングを含め、自分と同じ立場の仲間ができ、いろいろな価値観を共有できたため。
- 講義の内容や質は先生によって多少の差はありましたが、それぞれ得るものはありましたので満足しております。
また周りの受講生のレベルや置かれている立場が似通っているので楽しく受講できました。
- 最初は不安でしたが、講義内容もさることながら、**他社の方と議論する場が持てとても有意義**でした。
- **同じ志を持つ仲間**を得ることができた。また、自分の能力開発の重要性を知るきっかけとなったから。
- **全ては仲間ができたことが最高によかった**です。オフライン開催をして頂いたことに感謝します。
- ちょうど良い、講義日程だったと思います。講義内容も宗教、哲学など**普段なじみがないトピックスがあっても面白かった**です。
- 普段学習しない、もともと興味がない領域について、幅広くインプットや議論ができました。
また、自身の考え方や活動の振返りができ、進べき方向性も少しくリアになったと実感できたため。
- 有益だった。

どちらともいえない



受講者17名中17名が回答



2022年度参加者からの声

- 約半年間お世話になりました。教えて頂いた事が無駄にならない様、社会に還元していくと共に、残り約60年の自分自身の人生を今よりも鮮やかなものにしていきたいと思います。
- 今回見つけた種を行動で育てたいと思う。
- 是非、**社内で他のメンバーに受講させたい**です。同じイノベーターシップの志を持つメンバーを社内で増やしていくことができれば**社内で何か新しい風を吹かせることができるのではないかと**実感しました。
- またオフラインで先生招集して研修の場を設けようと思います。それぐらい、**有益であり、大好きな仲間ができた最高な研修**でした。
- 研修を通じて自身のビジョンの明確化や弱み強みの理解に繋がった。定期的に見直すことが重要、かつ、引き続き考え発信することが実現できるかどうかに関わっていくと思っているので、参加したメンバーとの関係を継続しつつ継続的に取り組んでいきたいと感じた。
- イノベーターシップを発揮するために**自分が創造したい未来について考え構想することの必要性を感じた**のでトライしてみようと思う。
- やはり人はコミュニケーションが一番大事だと思います。その大事さを先生が教えてくれ、また私自身自分から言葉を発信しないのはリスクだと思っているということを思い知らされた。

※一部個人名が出ている箇所等は削除、修正



開催方法および費用

- 定員：12～16名程度
- 対象：次世代を担うリーダー層（課長手前から課長層が主に参加されています）
- 開催形態：原則リアル開催（コロナの感染状況により随時調整する可能性があります）
- 費用：1社1～2名程度 630,000円（消費税別）
 - （但し、2名以上参加の場合、1名あたり530,000円（税別））
 - 費用に含まれるもの：テキスト代、課題図書代、試合観戦のチケット代
 - 含まれないもの：交通費、食費、懇親会参加費
- お支払い期日：2023年10月末日（2023年9月ご請求書発行）
 - お支払いについては、株式会社ライフシフトよりご請求書を発行いたします。
 - 個社のお支払いタームの制約ございましたらご相談ください。
- 応募期間：2023年5月1日～8月31日（定員に到達次第終了）

■お申込み方法：

お申込書をご送付申し上げますので、弊社担当者にご連絡いただくか、もしくは下記フォームまで送付先登録をお願いいたします。担当者より詳細ご連絡させていただきます。

<https://form.run/@life-shift-isp>

原則リアル開催とし、下記の会場を予定しています。
 (コロナの感染状況により随時調整する可能性があります)

会場

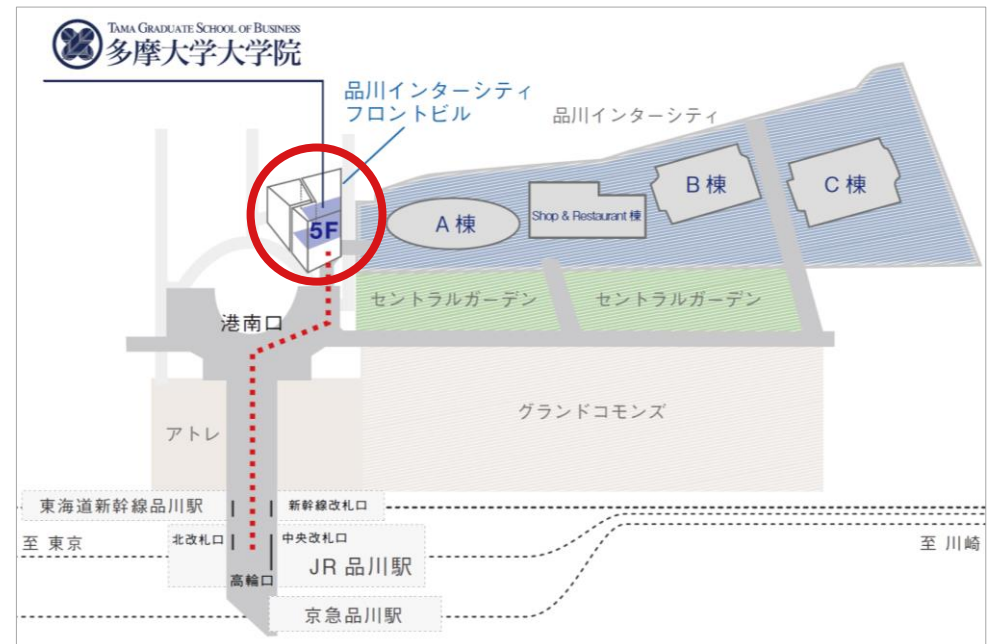
多摩大学大学院 (品川サテライト)

〒108-0075
 東京都港区港南2-14-14
 品川インターシティフロント5階
 TEL 03-5769-4170(代) FAX 03-5769-4173

アクセス

電車(JR在来線・新幹線および京急)でお越しの方

- (1) JR及び京急で「品川駅」下車。
港南口出口へお進みください。
- (2) 港南口を出ますと、そのまま品川インターシティに
続く歩道橋があります。
- (3) 正面、品川インターシティフロントビルに入り、
エレベーターで5階にあがってください。





ライフシフト社の事業分野

コーポレートメッセージ

$$\text{キャリア [アセット]} \times \text{イノベーション [チャレンジ]} = \text{ライフシフト [レジリエンス]}$$

LIFESHIFT

パーパス

日本のキャリア自律文化を創造し、活力ある社会づくりに貢献する

ビジョン

“キャリア×イノベーション＝ライフシフト”
が当たり前の中へ

ミッション

人生100年、80歳現役の時代を豊かに生き抜く「生き方改革」をサポート



研修事業



ライフシフト（キャリア）研修

- ・ベテラン層向け
- ・ミドル層向け
- ・若手層向け
- ・キャリアコーチング

企業内講師養成も可能



ライフシフト大学

(キャリアデザイン/ビジネススキル学び直し)

- ・異業種参加型
- ・企業単独開催型
- ・キャリアコーチング

企業内講師養成も可能



リーダーシップ/マネジメント研修

- ・管理職向け/経営者層向け
- ・グローバルリーダー(経営幹部候補)向け
- ・コーチング/メンタリングなど

シンクタンク事業



知識創造ラボ

- ・人事戦略コンサルティング
- ・組織風土改革
- ・イノベーション促進
- ・ダイバーシティ

LIFESHIFT



ライフシフト社のソートリーダーシップ



『リスクリング超入門 DXより重要なビジネスパーソン「戦略的学び直し」』
房広治、徳岡 晃一郎 (著)
KADOKAWA 2023年



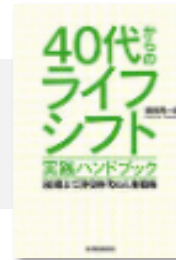
『デジタルマネー戦争』
房広治、徳岡 晃一郎 (著)
フォレスト出版 2021年



『ミドルシニアのための日本版ライフシフト戦略』
徳岡 晃一郎、木村勝 (著)
Wave出版 2021年



『なぜ学ぶ習慣のある人は強いのか』
土屋裕介、佐々木弘明、徳岡 晃一郎 (著)
日経BP社 2021年



『40代からのライフシフト実践ハンドブック』
徳岡 晃一郎 (著)
東洋経済新報社 2019年



『人工知能×ビックデータが「人事」を変える』
福原正大、徳岡 晃一郎 (著)
朝日新聞出版社 2016年



『未来を構想し、現実を変えていくイノベーターシップ』
徳岡 晃一郎 (著)
東洋経済新報社 2016年



『ミドルの対話型勉強法』
徳岡 晃一郎 (著)
ダイヤモンド社 2013年



『MBB:「思い」のマネジメント実践ハンドブック: 続編』
徳岡 晃一郎、舞田 竜宣 (著)
東洋経済新報社 2013年



『ビジネスモデル・イノベーション-知を価値に転換する賢慮の戦略論』
野中 郁次郎、徳岡 晃一郎 (著)
東洋経済新報社 2012年



『MBB:「思い」のマネジメント: 知識創造経営の実践フレームワーク』
一條 和生、徳岡 晃一郎 野中 郁次郎 (著)
東洋経済新報社 2010年



『世界の知で創る - 日産のグローバル共創戦略』
野中 郁次郎、徳岡 晃一郎 (著)
東洋経済新報社 2009年



『シャドーワーク知識創造を促す組織戦略』
一條 和生、徳岡 晃一郎 (著)
東洋経済新報社 2007年

人生100年、80歳現役の時代を
豊かに生き抜く
「生き方改革」をサポート



LIFESHIFT

Innovatorship
現実を**変革**する**思い**と**実践知**

